

輸出事業計画

※申請者名：株式会社大村屋酒造場、品目：日本酒

1. 輸出における現状と課題

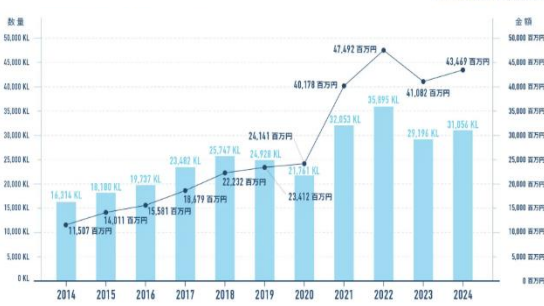
【現状】

- 1832年に日本酒の醸造、販売業として創業
- 1985年から国内最大手の日本酒輸出業者である商社と連携し米国への輸出事業を開始、現在まで12か国への輸出実績あり
- 海外での日本酒需要は好調に推移しており、日本からの輸出金額は2022年まで15年連続で過去最高額を更新。2024年は約434.7億円とトレンドが継続
- 特に、海外ではプレミアム志向が強く、特徴の強い高価格帯の商品が人気の傾向
- 実際に清酒の海外向けの出荷単価は10年前の2014年の平均額704円/ℓから、2024年では1,400円/ℓと2倍になっている

【課題】

- (製造・加工)
 - 築98年の工場は老朽化により衛生管理面やBCP対策に課題を抱えており、米国FDAの基準を満たしていない
 - 工場内の動線が複雑化し、製造工程の非効率化から増産要請を断るなど大きな機会損失を招いている。また、温度管理が難しい製造環境となっており、品質に影響を与えるリスクを内包している
- (物販・販売)
 - 輸出実績の8割を占める米国において販売ルートが確立された州は5州のみであり、内陸部への販路開拓が課題
 - 輸入業者または製造業者、卸売業者、小売業者が別法人でなければいけない規定（3-Tier-System）があり、各州の卸売業者への営業活動を実践したいが、人的リソースが限られており苦戦

＜日本酒輸出量・金額の推移＞



＜清酒の出荷単価の推移＞

輸出順位	R5(2023)・単価(円/ℓ)	R6(2024)・単価(円/ℓ)	上昇率
1 中華人民共和国	2,151	2,193	102.0%
2 アメリカ合衆国	1,398	1,430	102.3%
3 香港	2,588	2,539	98.1%
4 大韓民国	693	766	110.5%
5 台湾	863	924	107.1%
6 シンガポール	2,163	2,114	97.7%
7 カナダ	1,125	1,124	99.9%
8 オーストラリア	1,212	1,154	95.2%
9 イギリス	1,351	1,508	111.6%
10 フランス	1,320	1,265	95.9%
11 ベトナム	1,166	1,209	103.7%
12 タイ	615	671	109.2%
13 マレーシア	1,223	1,091	89.3%
14 ドイツ	529	623	117.7%
15 オランダ	985	792	80.4%
16 イタリア	535	700	130.9%
17 スペイン	780	840	107.6%
18 ブラジル	574	690	120.3%
19 フィリピン	1,095	1,179	107.7%
20 アラブ首長国連邦	1,918	1,837	95.8%
平均	1,407	1,400	99.5%

2. 輸出事業計画の取組内容

(製造・加工)

- 製造過程のなかで外部環境と接する「ダーティーゾーン」と外部との接触が遮断された「クリーンゾーン」が分離された新工場を建設し、米国食品安全規制法に規則される「意図的な食品不良の防止」を図ることのできる環境を整備
- 全ての工程が同一工場内で完結でき、かつ工程に沿った工場内レイアウトとすることで効率的な製造ラインを構築。加えて空調設備が一新され、工程間の移動距離が大幅に短縮されることで、より香り高く、味わい深い日本酒を造ることができる

(物販・販売)

- 新工場建設により増加する生産量分は、これまで断っていた受注への対応や新たなマーケットへの販売に充当できる
- 製造工程の効率化によって捻出された人的リソースを営業活動にシフトすることで売上の最大化を図る

(商流)

- 事業計画期間後も現行の商流からの変更予定はないが、引き続き(株)岡永経由での各国への輸出増加を図っていく

輸出計画の策定	- 当社は日本酒の海外向け卸の第一人者である(株)岡永と海外市場専売契約を締結 (株)岡永より海外市場動向の最新情報を収集し、受注増加を見越した適切な材料仕入調整や生産量の管理計画を同社と連携しつつ策定する
仕入れ～製造加工	上記計画に基づき、JA静岡経済連から原料米を仕入れ、製品製造を行う
輸出商社への販売	- 完成品を(株)岡永へ販売 (株)岡永が冷蔵倉庫やリーファーコンテナを使用した低温管理を徹底しつつ、現地インポーターへの販売を行う
現地インポーター	- 米国の場合、(株)岡永の米国法人が現地の卸売業者へ販売 - その他国の場合、(株)岡永から直接現地インポーターへ販売

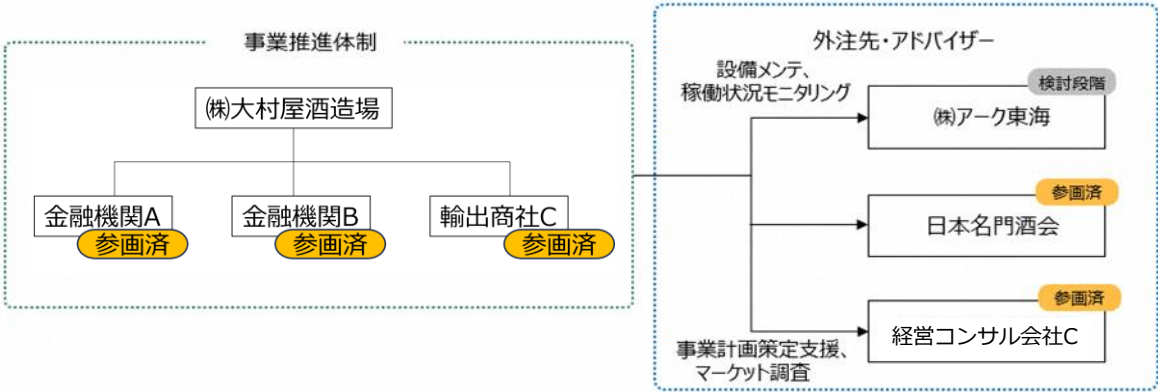
全国各地の飲食店、小売店等へ

輸出事業計画

※申請者名：株式会社大村屋酒造場、品目：日本酒

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

<連携体制図>



名称		役割	名称		役割
1	金融機関A	・資金支援	3	(株)アーク東海 (静岡県島田市)	・工場新設工事、レイアウト作成支援 ・設備導入後モニタリング、改善アドバイス
2	金融機関B	・業績モニタリング		4 日本名門酒会	・品質管理委員会による外部評価
3	輸出商社C	・輸出部門主要取引先 ⇒輸出先の振り分け	5	経営コンサル 会社C	・長期計画策定
		・海外需要調査、生産量アドバイス			・マーケット調査

4. 輸出目標額

	現状 (令和6年9月期)	目標 (令和11年9月期)	備考
輸出額 (千円)	189,000	319,000	68.8%増
輸出量 (kg)	127,897	216,000	68.9%増
輸出国	米国、韓国、台湾、カナダ、シンガポール、香港、ブラジル、英国、仏国、ロシア、中国、オーストラリア	左記に加え、フィリピン	輸出国数の増加よりも既存国に対する輸出量増加に取り組む
生産量/取扱量 (kg)	172,231	360,000	109.0%増